

※日本国際政治学会の会員のみなさまに関連のある箇所のみ抜粋です。(広報委員会)

=====
** 日本学術会議ニュース・メール ** No. 841 ** 2023/5/19
=====

● 【開催案内】公開シンポジウム

「コロナ感染症をめぐる記録と記憶一何を、誰が、どう残すかー」

■ -----
【開催案内】公開シンポジウム

「コロナ感染症をめぐる記録と記憶一何を、誰が、どう残すかー」

----- ■
【主催】 日本学術会議史学委員会、日本学術会議史学委員会歴史資料の保存・管理と公開に
関する分科会、日本歴史学協会

【共催】 全国歴史資料保存利用機関連絡協議会、日本アーカイブズ学会

【日時】 2023年6月24日(土) 13:30~17:30

【場所】 オンライン

【参加費】 無料

【定員】 なし (ただし、当日先着 300 名までは Zoom ミーティングにお入りいただき、それを超え
た場合は、YouTube で観覧いただきます)

【事前申込み】 要

<https://keio-univ.zoom.us/meeting/register/tZUlcuGsrDMoHt24Slb7axoFYj1w6YjiORPo>

【開催趣旨】

新型コロナウイルス感染症(以下、コロナ感染症)はさまざまな社会問題を浮き彫りにし、人類社会の変容と課題を考える機会となった。流行が 4 年目に入ったなかで、医療現場や保健所等における活動の記録と記憶をどう残し、どのように継承するのか。また、各地の史料保存機関等におけるコロナ感染症をめぐる公文書管理の取り組みはどうなっているのかなど、関係諸記録・記憶の収集・保全への対応を検証し、未来へ継承するための展望が、今必要である。

そこで、本シンポジウムでは、コロナ感染症をめぐる経験を未来に伝えるための記録や記憶の保存・継承について議論を深めることを目的とし、感染症の歴史やコロナ感染症に伴う社会変容などを念頭に記録や記憶の保存の意義を示す報告、コロナ感染者への対応の最前線にある保健所における活動についての報告、東京都のコロナ感染症をめぐる公文書管理の取り組みの報告、地域博物館におけるコロナ関係資料の収集の具体的な取り組みとその成果、課題などの報告の 4 本の報告をお願いした。

現在、日本学術会議史学委員会歴史資料の保存・管理と公開に関する分科会では、提言「新型コロナウイルス感染症のパンデミックをめぐる資料・記録、記憶の保全と継承に向けて」（仮題）を発出すべく文案を作成しているところである。そこでの議論と連動することによって、本シンポジウムの議論がより深まることが期待できる。

また、共催学協会である日本歴史学協会では、今年のシンポジウムを受けて、2022年8月4日付で「公文書館法の専門職員に係る附則2の撤廃を求める要望書」を発出したが、アーカイブズ専門職問題に継続的に取り組む観点から、本年度は特別報告として、国立公文書館による認証アーキビスト制度の動向についての報告をお願いした。

【プログラム】 <https://www.scj.go.jp/ja/event/2023/342-s-0624.html>

【問い合わせ先】 若尾政希

メールアドレス: wakao.masaki@r.hit-u.ac.jp

日本学術会議 YouTube チャンネル

https://www.youtube.com/channel/UCV49_ycWmnfhNV2jgePY4Cw

日本学術会議公式 Twitter

https://twitter.com/scj_info

学術情報誌『学術の動向』最新号はこちらから

<http://jssf86.org/works1.html>

=====

日本学術会議ニュースメールは転載は自由ですので、関係団体の学術誌等への転載や関係団体の構成員への転送等をしていただき、より多くの方にお読みいただけるようにお取り計らいください。

過去のメールニュースは、日本学術会議ホームページに掲載しております。

<https://www.scj.go.jp/ja/other/news/index.html>

【本メールに関するお問い合わせ】

本メールは、配信専用のアドレスで配信されており返信できません。

本メールに関するお問い合わせは、下記のURLに連絡先の記載がありますので、そちらからお願いいたします。

=====

発行: 日本学術会議事務局 <https://www.scj.go.jp/>

〒106-8555 東京都港区六本木 7-22-34